

ぽらりす



≪2025年3月 日発行/毎月初めに天文台職員が情報発信します≫

【細く欠けた金星をぜひ見に来てください】

今年3月の金星は、望遠鏡を使ってたいへん細い形を見ることができます。

まるで月の満ち欠けとそっくりですが、満ち欠けする原理は月と同じです。金星も月と同じく、自分では光っておらず、太陽に照らされている部分だけが明るく輝き、地球に住む私たちから見るすることができます。

太陽→金星→地球の順に一直線上に並ぶ日を「内合(ないごう)」といい、約1年7カ月の周期で起こる現象です。地球から見て太陽と金星がほぼ同じ方向に位置しますが、軌道面の傾きにより、今回は太陽と金星は比較的離れていますので、望遠鏡で観察することができそうです。



今年の内合は3月23日です。(黄道座標系による)

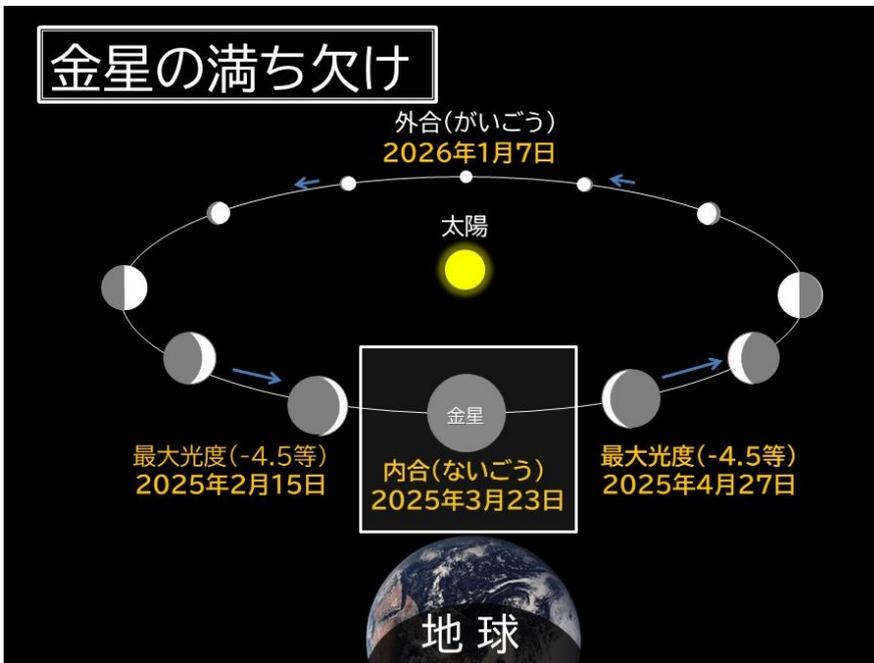
この日の前後の金星は太陽にたいへん接近していますので、危険な太陽光を遮断し金星のみを観察します。晴れた日に、できれば午前公開時間にお越しください。

左の写真は、前回の内合、2023年8月13日の金星です。望遠鏡を覗くとこのように見えます。

内合の日を過ぎても、しばらくは極めて細い金星を見ることができます。その後少しずつ太陽から離れた金星は4月27日には最大光度となり、この頃にはよく晴れた日に双眼鏡や肉眼でも見ることもできるでしょう。

双眼鏡や肉眼で見るためには、金星の位置がある程度正確にわかっていないと難しいのですが、天文台の望遠鏡が金星を導入していれば、その方向に比較的簡単に見つけることができるはずです。その後は、6月1日には西方最大離角となり、半月の形の金星を見ることができます。

天文台を訪れた方は、スタッフに金星について質問してみてください。(横山明日香)



「火星」を見よう

3月中旬の夕方、ほぼ真上に赤く輝く火星を見つけることができます。

近くには、ふたご座の1等星「ポルクス」と2等星「カストル」があり、良い目印となっているので是非探してみてください。火星は、地球のすぐ外側を公転する惑星ですが、いつも明るく見えているわけではなく、約2年2か月毎に地球に接近して見やすくなります。今年はその接近の年で、1月12日に地球に最接近したばかりなので、現在もまだ明るく見えています。火星の大きさは地球の半分程度で、自転周期は24時間37分(地球は23時間56分)と地球の一日とほぼ同じです。また、地軸の傾きも25.2度(地球は23.4度)で四季もあります。このように、地球によく似た部分が多い惑星のため、昔から注目されてきました。

火星を探せ

1877年の火星接近時、イタリアのミラノ天文台館長スカパレツリは火星表面の略図を作成し特徴的な地形に名前を付けました。その際、直線も描かれ同じように名前が付けられました(のちにその線の存在は否定されました)。彼は、この線は水路のようなものだと考え、イタリア語でCanali「溝・水路」と名付けましたが、これが英語に訳された時に誤ってCanal「運河」と訳されてしまいました。当時、「運河」は人間の最高技術で作る人工河川であったことから、火星には何らかの知的生命体がいるという憶測を生みました。これが当時の天文学者たちの好奇心を掻き立てます。こうした状況を背景に、1938年10月アメリカの俳優オーソンウェルズは小説「宇宙戦争」をラジオドラマ化して放送しました。火星人が地球を侵略する架空の話でしたが、それを聴いた多くの市民が侵略は現実のもの信じ込み大騒ぎとなりました。誤解はすぐに解けましたが、この騒動で火星に知的生命体が存在するのでは?という憶測はさらに深まります。

1964年、NASAは火星に向け最初の探査機マリナー4号を打ち上げました。当時、火星がどのような惑星かほとんど知られておらず、科学者たちは送られてくる映像にひょっとして生物の痕跡が見つかるのではと期待していましたが、実際に映っていたのはクレーターが散在する月のような姿だけで人々を落胆させました。

1971年、火星の詳細な地図を作成するため、NASAはマリナー9号を打ち上げ、火星表面の約80%の鮮明な画像が撮影されました。その結果、高さが27kmもある太陽系惑星の中で最大の火山「オリンポス山」や長さが5000kmにも及ぶ「マリナー溪谷(「マリネリス溪谷」とも呼ばれる)」など、地球とは全く違った壮大なスケールの地形が発見されました。ここでも生物の痕跡は見つかりませんでした。これらの画像により火星探査計画はさらに進められます。

1976年、NASAはバイキング1号を火星に着陸させ、土のサンプルを採取し詳しく調べましたが、残念ながら生物の存在を発見することはできませんでした。しかし、火星にはかつては大量の液体の水が存在していた痕跡もあり、現在も地下には氷として存在していることが分かっています。現在もアメリカ以外にも中国やインドなどによる火星探査は続いています。いつの日か新たな発見があることを期待したいですね。

(林 美輝)



☆ 3月の夜間公開 (予約は不要です。公開時間内にお越しください。)

7日(金)～9日(日) 19～21時 月・火星・木星・冬から春の星座

21日(金)～23日(日) 19～21時 火星・木星・冬から春の星座

※ 休台日は、3日(月)、10日(月)、17日(月)、24日(月)、31日(月)です。